

2 石川の特性

将来像 I 魅力を磨き人・ものを惹きつける「いしかわ」

強み【1】 陸・海・空の交流基盤の充実

- 1県2空港 2重要港湾の実現、さらに北陸新幹線金沢開業による陸・海・空の交流基盤の構築
- 北陸新幹線金沢開業により、3大都市圏と時間距離が同程度となった
- 北陸新幹線金沢開業による効果
 - ◇ 時間短縮効果(金沢～東京間)
 - 開業前:最短3時間47分→開業後:最短2時間28分
 - 出典)JR西日本旅客鉄道株式会社HP
 - ◇ 主要観光地の入り込み状況(H27年)
 - 金沢城公園(3/14～9/13):約140万人(対前年同期比1.8倍)
 - 兼六園(3/14～9/13):約171万人(対前年同期比1.4倍)
 - 輪島朝市(4～7月):約27万人(対前年同期比1.3倍)
 - 出典)石川県観光戦略推進部
- ◇ 人気急上昇の旅行先ランキング:1位(H27年春)
 - 出典)楽天トラベルホームページ
- 「ダブルラダー結いの道」整備構想に基づく広域道路ネットワークの形成
- のと里山海道等の無料化(H25年3月)、能越自動車道七尾氷見道路の全線供用(H27年2月)
- 金沢港・七尾港の大水深岸壁の整備などによる国際物流拠点の形成
 - ◇ コンテナ貨物量(金沢港)
 - H18年:30,800TEU→H26年:60,304TEU(過去最高のコンテナ取扱量を記録)
 - 出典)国土交通省「港湾統計」
- クルーズ船の大型化により乗降客数が大幅に増加
 - ◇ 寄港数(金沢港)
 - H18年:3,178人(16本)→H26年:12,463人(16本)
 - 出典)石川県商工労働部

強み【2】 豊かな観光資源

- 世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」や日本三名山の一つである霊峰白山など四季折々の美しい自然、日本三名園の一つである兼六園
- 日本遺産に認定された能登のキリコ祭りや兼六園、加賀百万石時代から培われた風土(伝統工芸、伝統芸能、食文化など)
- 旅の目的として、食を期待する人が多い
 - ◇ 金沢で楽しみたいこと:第1位「グルメ」(H27年2月)
 - 出典)ジャパン・レストラン・ウィーク、株式会社ぐるなび共催「金沢の訪問意向に関する調査」
- 湯量豊富な温泉とそこで培われてきたおもてなしの文化

強み【3】 伝統と創造に育まれた質の高い文化の土壌

- 日展入選者数:23年連続全国第1位(人口当たり)(H26年)
- 人間国宝(工芸技術保持者):全国第1位(人口当たり)(H26年)
- 能楽や邦楽、茶道、華道をはじめとした伝統文化が盛ん
 - ◇ 茶道をたしなむ人の割合:全国第3位(H23年)
 - ◇ 華道をたしなむ人の割合:全国第7位(H23年)
 - 出典)いずれも総務省統計局「社会生活基本調査」
- オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される新しい文化の創造
 - ◇ クラシック音楽に親しむ人の割合:全国第5位(H23年)
 - 出典)総務省統計局「社会生活基本調査」
- 各種文化施設の整備により文化に親しむ環境が充実

強み【4】 高等教育機関の集積

- 高等教育機関数:全国第2位(人口10万人当たり)(H26年)
 - 出典)石川県県民文化局「平成27年版いしかわ100の指標」
 - ◇ 大学12校、短期大学5校、高専2校、合計19校(H27年)
 - ◇ 全国で3県にしかない先端科学技術大学院大学が所在(他に奈良県、沖縄県)
- 高等教育機関学生数:全国第3位(人口千人当たり)(H26年)
 - 出典)文部科学省「学校基本調査」、総務省「人口推計」

強み【5】 盛んな国際交流

- 外国人登録者数が1.2倍に増加
 - H18年:9,243人→H26年:10,655人
 - 出典)法務省「在留外国人統計」
- 外国人留学生数:全国第5位(人口10万人当たり)(H26年)
 - 出典)石川県観光戦略推進部
- 北陸新幹線、小松空港国際定期便やチャーター便の活用、クルーズ船の誘致など、県内交通インフラを活用した更なる誘客拡大が見込まれる

強み【6】 暮らしやすさ、住みやすさの満足度が高い

- 都道府県幸福度ランキング:3位(H23年)
 - 出典)法政大学大学院幸福度指数研究会
- 住みよさランキングトップ50に県内6市がランクインし、都道府県では全国第2位(能美、野々市、かほく、七尾、白山、小松)(H27年)
 - 出典)東洋経済「都市データバック」2015年版

課題【1】 人口減少が引き続き進行する見込み

- 本県の将来人口推計(2010年→2060年)
 - ◇ 総人口:1,170千人→789千人 ▲32.6%
 - ◇ 若年女性人口:138千人→67千人 ▲51.5%
 - 出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年3月推計)」準拠
 - ◇ いしかわ創生人口ビジョンでは2060年人口の将来目標を931千人に設定
- 特に能登地域では、S25年をピークに一貫して人口が減少
 - ◇ S25年:350,068人(ピーク時)→H2年:267,242人→H12年:239,263人→H22年:211,418人
 - 出典)総務省「国勢調査」

課題【2】 北陸新幹線金沢開業効果を一過性とせず、持続・発展させる

課題【3】 本県の優れた文化の継承と発展

課題【4】 高等教育機関入学者の確保

課題【5】 国際化への対応

- 東京オリンピック・パラリンピック開催等による外国人観光客の増加を見据えた本県の魅力発信による国際観光の推進、企業の海外進出を担うグローバル人材の育成

課題【6】 近年は人口の転出超過が続いている

- 転出超過586人(10代後半で転入超過、20代で大幅な転出超過)(H26年)
出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」
- 大学生の県内就職率(H26年度)
県内大学(県内出身):約7.5割
県内大学(県外出身):約1.5割
県外大学(県内出身):約6割
出典)石川県商工労働部

将来像 Ⅱ 成長を実感でき働く人が輝く「いしかわ」

強み【1】 層の厚いものづくり基盤

- 機械、繊維をはじめとする製造業が集積
- これらを支える鋳造、鍛造、板金、溶接といった幅広い加工分野にわたる優れた人材を有する企業が集積
◇鋳工業生産指数H26年9月からH27年6月まで連続して全国1位
出典)石川県県民文化局
- 機械、金属分野を中心に特定分野シェアトップのニッチトップ企業が集積
◇ニッチトップ企業数 H17年:40社→H26年:73社
出典)石川県商工労働部「石川県産業成長戦略」
- 経済産業省のグローバルニッチトップ企業数100選に県内6社選定(全国第4位)
出典)経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」(H25年度)

強み【2】 新規事業等に意欲的な企業が多数存在

- 研究開発、経営革新など経営体質の強化に取り組む企業が多数存在
◇産業化資源活用推進ファンドによる地域資源を活用した商品開発・販路開拓採択563件/支援終了251件中事業化成功225件(89.6%)
出典)石川県商工労働部
- 国の超大型研究開発拠点の存在
◇革新複合材料研究開発センター(白山市)
◇北陸StarBED技術センター(能美市)
- 人口当たり新設事業所数:全国第7位
出典)いずれも総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査」

強み【3】 企業誘致に有利な立地環境の良さ

- 全国トップレベルの助成制度等を活用した戦略的な企業誘致を実施
◇新規立地と既存拠点の増設を合わせて累計59社を誘致(H18年度～H26年度)
出典)石川県商工労働部
- 大規模地震のリスクが低い

強み【4】 特色ある農林水産物

- ルビーロマン、エアリーフローラ、能登牛、のとてまり、能登とり貝など特色のある農林水産物が多い
- 水揚げ金額:日本海側第1位(211億円)
水揚げ量:日本海側第2位(7.3万t)
(いずれもH25年)
出典)石川県農林水産部

強み【5】 豊富な地域資源

- 豊かな自然、食文化、伝統文化など
- 加賀料理に代表される総合力の高い食文化、発酵に代表される高度な食品加工技術

課題【1】 県内生産年齢人口の減少による産業活力の低下

- 働き盛りの人口が全国平均を上回る状況で減少
◇生産年齢人口割合(15～64歳)
(2015年→2040年) 石川県:59.1%→53.4%
全 国:60.7%→53.9%
出典)国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計(2013年3月推計)」
- 経営者の高齢化による事業継続問題の顕在化

課題【2】 国内市場の停滞・縮小

- 人口減少による国内市場の規模の停滞・縮小が懸念されている

課題【3】 成長市場の拡大・新技術の出現

- 炭素繊維複合材料や医療機器等の市場は今後も拡大が見込まれる
- IT分野などで技術革新が加速し、今後も社会や市場に影響を与える新技術が出現する可能性がある

課題【4】 東南アジアなど新興国の海外市場の成長

- 世界に占める日本のGDP割合は低下する一方、アジア等の新興国は日本を遥かに凌駕する見通し
- 県内企業の海外拠点も東南アジアを中心に増加する傾向が続く見込み

課題【5】 農林水産業の経営基盤の脆弱さ

- 本県の農林水産物は、生産量が少なく、供給が不安定
 - ◇ 本県食材供給量の全国に占める割合(金額ベース) H23年:0.7%程度(全国第42位)
出典)農林水産省「生産農業所得統計」
- 過疎化・高齢化により担い手が不足し、耕作放棄地が増加している
 - ◇ 農業従事者68.4歳(全国66.1歳)、林業従事者49.9歳、漁業従事者59.8歳
出典)石川県農林水産部「石川の農林水産業2015」

課題【6】 人工林資源の成熟に伴う森林資源の利活用本格化

- 戦後造成された人工林資源が成熟しており、10年後には人工林のうち高齢級の面積が現在の約6割から約8割まで増加
- 県産材の生産・供給は伸びておらず、豊富な森林資源を活かせていない現状

課題【7】 水産業の需要の高まりに応じた、中長期的な水産物の安定供給

- 北陸新幹線金沢開業もあり、県産水産物の需要が高まっている
- 県内の漁獲量は最盛期と比較し約3分の1に減少
H2年:22.7万t→H17年:5.8万t→H25年:7.3万t
出典)北陸農政局「石川農林水産統計年報」

将来像 Ⅲ 安全・安心とやすらぎを感じる「いしかわ」

強み【1】 暮らしやすさ、住みやすさの満足度が高い(再掲)

強み【2】 県民の防災意識が高い

- 県内防災士数 H26年末時点:3,222人/人口に占める防災士の割合全国第3位
出典)石川県危機管理監室
- 災害ボランティアコーディネーター養成数 H18年:53人→H26年:460人
出典)石川県県民文化局

強み【3】 整いつつある災害時の避難先・輸送ルート

- 防災拠点施設の耐震化はH27年度に完了(H26年度末時点における防災拠点施設の耐震化率:99.6%)
- 緊急輸送道路の落橋防止対策 H25年度に全て完了
- 土砂災害警戒区域の指定 H26年度に全て完了

強み【4】 環境への負荷の少ない循環型社会づくりが進んでいる

- 家庭版環境ISOに取り組む家庭数 H23年度:9,294家庭→H26年度:24,072家庭
出典)石川県環境部
- 戸建住宅着工件数に対する認定低炭素住宅の割合 H26年度末累計:2.39%(全国第1位)
出典)石川県環境部

強み【5】 多様性に富んだ豊かな自然環境が保全されている

- 変化に富んだ海岸線から高山植物が生息する白山まで、豊かな生物多様性
- 県土の約6割を占める里山や人の暮らしと深く関わる里海が、身近な自然として存在し、その利用を通して本県独自の文化や伝統工芸など多くの恵みを受

強み【6】 女性の就業率が高く、働きながら子育てしやすい環境が整備されている

- 全国トップクラスの女性就業率(15歳～64歳) H26年:70.5%(全国63.6%)
出典)石川労働局「石川県労働力調査」、総務省「労働力調査」
- 保育所普及率 H26年:62.6%(全国第3位)
出典)総務省「国勢調査」、厚生労働省「保育所入所待機児童数等調査」
- 延長保育実施保育所数 H24年:61.4箇所(全国第4位)
出典)総務省「国勢調査」、厚生労働省大臣官房統計情報部「社会福祉施設等調査」

課題【1】 多発する異常気象と自然災害

- H23年東日本大震災、H26年広島市土砂災害、同年御嶽山噴火、H27年関東・東北豪雨など
- 県内でもH19年能登半島地震(M6.9、震度6強)、H20年浅野川豪雨(観測史上最高となる時間雨量138mm)などの災害が発生

課題【2】住宅の耐震化率や河川・土砂災害危険個所の整備率が低い

- 住宅の耐震化率
H25年:約76%(全国平均約82%)
出典)総務省「住宅・土地統計調査」
- 土砂災害危険(重点)個所整備率:28.9%(H26年度)
出典)石川県土木部「土砂災害に対する課題」
- インフラの老朽化が進行
◇県管理の橋梁(橋長15m以上)約780橋のうち
建設後50年経過の橋梁が約60橋(H26年度)
から10年後には3倍以上の約200橋(H36年
度)に増加
出典)石川県土木部「いしかわの土木2015」

課題【3】医療ニーズの多様化

- 社会構造の多様化に伴い、疾病構造が変化
- 特に近年では、職場におけるうつ病や、高齢化による認知症の増加など、精神疾患の患者が増加傾向
精神通院医療受給者
H19年:9,555人→H24年:12,432人
出典)石川県健康福祉部
- 医療技術の進歩や、住み慣れた地域社会の中で家族とともに暮らしたいという価値観の変化により、今後も在宅医療に対するニーズが増加する見込み

課題【4】自然環境の荒廃の進行

- 里山里海の荒廃や鳥獣被害の深刻化などにより、暮らしへの影響が顕在化している

課題【5】合計特殊出生率が人口置換水準を下回るとともに、子育てに対する不安が継続

- 合計特殊出生率
石川県 H17年:1.35人→H26年:1.45人
人口置換水準:2.07
- 子どもがいない人や未婚者のうち63.2%が、子育てに対して経済的不安や精神的不安を持っている
出典)石川県健康福祉部「結婚や子育てに関する県民意識調査」(H25年度)

課題【6】ひとり暮らしの高齢者や要介護高齢者の増加

- ひとり暮らし高齢者数の増加
H22年:36,198人(高齢者全体の13.1%)
→H37年:54,286人(高齢者全体の15.9%)
出典)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(2014年4月推計)
- 要介護認定者数の増加
H18年:42,884人→H26年:56,228人
出典)石川県健康福祉部「石川県長寿社会プラン2015」
- 要介護認定率は全国平均を上回る水準で推移
石川県 H18年:17.4%→H26年:18.4%
全 国 H18年:16.8%→H26年:18.2%
出典)石川県健康福祉部「石川県長寿社会プラン2015」
- 高齢者の交通事故の割合の増加
H17年:20.9%→H26年:28.7%
出典)石川県警察本部

課題【7】介護・福祉人材の不足

- 団塊世代が後期高齢者となるH37(2025)年には、約3千人の介護職員が不足する見込み
出典)石川県健康福祉部「石川県長寿社会プラン2015」

課題【8】健康寿命の延伸

- 健康寿命と平均寿命(H23年)

	健康寿命	平均寿命
男性	77.03歳	79.80歳
女性	80.59歳	86.50歳

出典)石川県健康福祉部「いしかわ健康フロンティア戦略2013」